

名護市
議会議員

東恩納たくま

発行：東恩納たくま
携帯：090-9786-9471名護市字瀬嵩48 電話・FAX：0980-55-8587
ホームページ：www.takumahigashionna.jirido.com

議会報告第19号

辺野古の埋め立て申請は認めない！

わずか3行の市長意見 名護市議
会は市長の意見書を否決した

昨年十一月、沖縄県知事が辺野古基地建設の埋立変更申請に関して名護市長へ意見を求めたことを受け、市長は十一月の名護市議会に、追加議案として市長意見を提出した。その全文、たったの3行。

「名護市辺野古地区地先を埋め立てて普天間飛行場代替施設建設のための造成用地(作業ヤード)として使用することを取りやめ、埋立区域から名護市辺野古地区地先を削除する埋立地の用途の変更については、「異議はない。」

一九九七年の市民投票以来、名護市民は新基地建設をそれぞれの立場で何度も考えさせられてきた。それなのに、名護市長である渡辺知武豊氏の意見がたった3行であることに怒りを感じたのは私だけではなかった。私たちが野党市議は、意見書に埋立変更申請の様々な問題点を盛り込み改めて三月議会に出し直すよう市長に求め、この3行の意見書を否決した。しかし市長は三月議会に新たな意見書を出さず、結局沖縄県知事には市長意見は提出されなかった。「市長意見は無し」とな

ったのだ。
稲嶺進前市長との大きな違い

平成二十五年の十一月に公有水面埋立承認願書に対して稲嶺進前市長が沖縄県に提出した意見書は23ページに及んだ(注1)。市民の生活環境や防災への影響について、また辺野古・大浦湾の埋立が、環境省、県、市の将来構想にもそぐわないと指摘した。

そのおすびで、稲嶺進前名護市長は国に毅然と意見を述べている。「私たち県民は、六十八年(平成二十五年当時)にも及び米軍基地及び重人・重属によって事件・事故等の危険・不安にさらされ人権をも脅かされる生活を強いられました。(中略)いくら国防と言えども、一地域に犠牲を押し付け、地域住民の声を無視し、蹂躪することがあってはなりません。(中略)市民生活の安心・安全、市の財産である自然環境の保全、未来を生きる子どもたちのため、そして私たちが名護市民の誇りをかけて、「普天間飛行場の辺野古移設」に断固反対する、これが名護市民の強い決意であります。」

市議会として埋立変更申請の不承認を求める意見書を提出

三月議会に市長意見が出されなかったことを受け、野党市議団は市議会の意見として「普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立変更承認申請に対して不承認とすることを求める



岸本洋平市議が瀬嵩区長に挨拶に来ました。

意見書」を三月二十五日に野党多数で可決し、沖縄県に提出した(別紙で添付)。この意見は今回の埋立変更の原因となった大浦湾の軟弱地盤について言及し、工事技術の不透明性を指摘、また前述の稲嶺進前市長の意見書にも触れ、その趣旨が今もなお名護市民の意見を代弁するものだと強調している。

私たちが野党市議団は、来年2月の名護市長選挙では稲嶺進前市長の意思を踏襲する岸本洋平氏を市長候補に擁立し、当選へ向けて全力で取り組んで行く。基地問題をまるで他人事の様に出る渡辺知市政を終わらせ、市民本意の市政を取り戻すために多くの方々を協力させて頂きたい。

注1、全文はたくまホームページに掲載しています。

東恩納たくまの一般質問

東恩納たくまは去る三月議会で以下の質問を行いました。

○基地問題について

- 辺野古ダム湖畔ボーリング調査について
- キャンプ・シュワープの陸上自衛隊との共同使用について

— 辺野古移設中止を求める三十六地方議会の意見書について

○市営市場の空き店舗について

○教育行政について

- 学校給食の地産地消について
- 給食センター統合後の地産地消について
- 学級崩壊について

— 学校組織体制の保護者への周知について

○農業振興について

- 畜産排泄物を活用したメタン発酵処理による地産地消事業について
- 名護林業生産加工販売事業協同組合の再スタートについて

— 市有地の賃貸料未納について

○瀬嵩保育所の跡地利用について

— 以下その一部の要約を記載します。

○基地問題について

①沖縄防衛局による辺野古ダム湖面のボーリング調査が終了したと聞きました。市はこの調査はダム湖畔の洪水吐きの付け替えが目的だと答えています。名護市がボーリング調査の許可に至った経緯を説明して下さい。

市回答

沖縄防衛局がボーリング調査を実施した場所は個人所有の土地となっており名護市の法定外公共物ではない。よって名護市法定外公共物管理条約の適用はない。またボーリング調査は沖縄防衛局が土地所有者と調整を行った上で進めたもので、洪水吐けに関してはダムを管理する水道課が問題がないと判断している。(よって名護市の許可は不要)

たくま

稲嶺進前市長は環境調査をすることに関してさえも、法定外公共物にあたるから、協議の対象だと言ったのですよ。なぜ今回は解釈を変えたのか。(渡員知)市長の判断があったのではないか。

市回答

(前市長の)当時も、具体的な協議には入っておらず、法定外公共物にあたるという判断はされていないという認識だ。

たくまの見解

辺野古ダムの洪水吐きの付け替えの目的は、基地建設に必要な美謝川の水路変更だ。しかし市はそこは見ないふりをして、工事の段階を細分化する防衛局に協力し、名護市との協議や市の許可が必要ないと判断した。結果今回の辺野古ダムボーリング調査を黙認した。しかも、稲嶺進前市長のこれまでの方針を全くなかつたことになっているのは許されない。国に従うためにはなりふり構わない渡員知市長の真意が見える。

②キャンプ・シュワープを陸上自衛隊と共同使用するに極秘に合意がなされたとの報道がありました。市長としてどのような見解ですか。

市長

新聞報道を受けて、沖縄防衛局に問い合わせたところ水陸機動回を配備する計画は有していない

との説明があったので、そのように受け止めている

たくま

機能の強化にもつながること、文書で正式に申し入れて、回答を取るといのが、名護市長の役割だと思つ。

③県民投票後、辺野古移設中止を求める意見書36件が地方議会で可決されたこの新聞報道がありました。また海外でも沖縄の民意を尊重する決議がなされています。これは、住民投票の結果が尊重されていない現状が、沖縄県や名護市の一地方のみの問題ではなく、民主主義の根幹を揺るがす問題だとして、意見書が可決されたのだと思います。市長はこのような地方議会の取組に対してどのような見解をお持ちですか。

市長

それぞれの地方議会において様々な議論があるものと認識している。国防の問題について国民全体で議論することは有意義であると考えらる。

たくまの見解

基地問題に対しても、沖縄の民意が尊重されていないことに対して全く他人事のような渡員知市長。国から許しがたいと何も言えないのだから。

○市営市場の空き店舗について

市の中心部にある市営市場に空き店舗が目立つと、市のにぎわいが損なわれます。指定管理者やテナント会と連携しながら、ぜひとも次年度は空き店舗の解消に向けて取り組んでいただきたい。

市回答

市営市場は現在二区間が空き店舗となっている。これまで期間を設けて募集していたが、R三年一月より随時募集へと変更し、入居希望者のタイムラグで応募できるようになっている。空き店舗が継

続するような区間については例えば物販店舗に物販以外の業種の応募申請ができるなど、空き店舗を埋めるために、テナント会とも連携して対応していきたい。

○教育行政について

①学校給食について

- ・地産地消はこのように推移していますか。
- ・五つの給食センターを二つに統合した場合、地産地消推進は堅持できますか。
- ・遺伝子組換え食材を、学校給食に使用していいですか。また、今後の使用を考えていますか。

教育委員会回答

名護市学校給食の食材調達にあたり、二十八年程度より、沖縄県産食材の使用は減少傾向である（R1元年度は十八％）。名護産の食材を優先的に利用し使用量向上に努めて行く。

- ・五センターから二センターへの学校給食施設の再整備後も、地産地消を推進して行く。また再整備の学校給食施設は調理能力四千食だが、地産地消における食材調達の仕組みを検討して行く。
- ・遺伝子組み換え食材の使用はない。今後はPTA会長、学校長及び有識者を委員とする名護市学校給食センター運営委員会にて、安全安心な学校給食の提供の視点から検討して行く。

②学校の組織体制について

学級崩壊やいじめなどの問題は、そこに至るまでには個別の事案が複合的に絡み合っており起こっていると思います。その解決のために、問題を、個別、個別の事案として片付けたり、個々の責任とするのではなく、チームとして取り組む組織体制の構築を教育委員会は図っていると思います。そ

のことを、地域や保護者に分かりやすく伝えるため、図式化し説明していただけないでしょうか。そうすれば、今後名護市全体に展開する「コミュニティスクールの一助になると思います。そのことにより、地域や保護者も安心して、チームの一員として協力していただけるのではないのでしょうか。

教育委員会回答

子供たちがこれからの変化の激しい世界を生きていくためにはやはり時代の変化に対応して様々な力を身に付けていかなければならないと考えている。

校長先生のリーダーシップのもと学校のマネージメントを強化して組織として教育活動に取り組む体制を作り上げることが大切であると思っている。

このためコミュニティスクールなどの制度を導入して地域の地域資源を活用した教育、さらにはその中には専門性を持ったスタッフも必要に応じて配置しているので、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携をし、それぞれの業務を分担しながら学校の機能を強化していくことが大変重要になっている。このようなチームとしての学校体制を整備することによって教職員一人一人が自らの専門性を発揮する、専門スタッフの参画を得て課題の解決につながっていくものだと考えている。今後またチームとしての役割体制作りを共に連携して示していきたいと考えている。

教育長回答

教育委員会は、平成三十年度に「名護市いじめ防止基本方針」を制定しホームページに掲載している。本基本方針をもとに各学校の実情に添いそ

れぞれの学校においていじめ防止基本方針を策定し学校ホームページなどを活用し周知を行っている学校もある。

いわゆる学級崩壊への対応について議員から提案の地域や保護者にわかりやすく伝えるための図式化について、見てすぐわかると思うことで有効なことだと考える、教育委員会の方であらかたの雛形を作って学校の実情に合わせて作ってもらうなど、その件は検討させていただきたい。

③専門の相談員（臨床心理士、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）、あるいは学習支援員や特別支援教育支援員を名護市として増員する考えはありませんか。

教育委員会回答

市教育委員会においては臨床心理士並びに学習支援や特別支援教育支援員を配置しており、県教育委員会においてスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを配置していただいている。市教育委員会としては各学校の状況等も踏まえ支援員等の増員が必要かどうか、慎重に検討して進めている。

○瀬嵩保育所の跡地利用について

市回答

瀬嵩保育所の跡地利用については全庁的に意思確認を行っており、三月中には庁内の意思確認の内容を取りまとめ、その後、庁内、関係団体等へのヒアリングを行い、部長会において土地利用の方針を決定するというスケジュールになっている。

瀬高区に新しいシンボル2つ

① 漆喰シーサー

一昨年に始まった大浦湾ピースアートプロジェクト。2回目の昨年は火災で破損した首里城の瓦を使った漆喰シーサーづくりが行われました。まぶい組瓦シーサープロジェクトが主催し、山原ものづくり塾がご協力下さいました。大浦湾を見渡せる瀬高墓地に2頭のシーサーが出来上がりました。シーサーが魔除けとなり、大浦湾を守ってくれることを願います。

当日は親子向けのシーサーワークショップも行われ、多くの親子連れが参加しました。



② 瀬高区案内版

「地域の事は、地域の人がよくわかる。地域からの提案で地域のためになる事業ができる。」と稲嶺進前市長が提案して始まった

「ちびる事業」。名護市各区で様々な取り組みがされていますが、瀬高区ではちびる事業の予算を獲得して「瀬高の史跡巡りと自然案内版」を作りました。瀬高区の自然や二つの市指定文化財を含む計一八の史跡が紹介されています。事業を進めた兼濱富男区長は「先輩たちが築き守ってきた資産をしっかりと継承し、もっと理解を深めたい」と語っていました。



完成した瀬高区案内板の前で

戦没者の遺骨を辺野古埋立に使うな!

辺野古の新基地建設で本島南部からの土砂採取断念を求める沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表が県庁前でハンガーストライクを行いました。具志堅さんの思いをつなげるために名護市議会でも、「沖縄戦戦没者の遺骨等を含む可能性のある土砂を埋立てに使用しないよう

求める意見書」を可決しました。日本政府は沖縄に寄り添うと言うけれど、南部の土砂を辺野古埋立に使うなど、人道的に許されない行為です。



ハンスト中の具志堅さんと琢磨

辺野古・大浦湾の基地建設に反対し、シュフゲート前の座り込みや安和での土砂搬出作業の監視行動を行っていた高垣喜三さんが昨年十一月にお亡くなりになりました。高垣さんは厳しい状況の中でもいつも冷静で声を荒げる事のない人で、みんなが頼りにしていました。私もとてもお世話になりました。仲の良いご夫婦で、残された妻の縁さんの事を考えると胸が締め付けられる思いです。

高垣さん、今まで本当にありがとうございました。あなたの思いは無駄にしません。